様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成２５年　６月８日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2011 ～ 2012
課題番号：23720092
研究課題名（和文）　ドイツ統一後のテレビ・映画広告におけるエイズ表象の変化と性規範の関係
研究課題名（英文）　The relationship between changes in discourse on AIDS in television and cinema advertising and sexual norms after the German reunification
研究代表者
嶋田　由紀（SHIMADA　YUKI）
早稲田大学・総合研究機構・招聘研究員
研究者番号：00333138

研究成果の概要（和文）：本研究では、ドイツ統一以降のテレビ・映画のエイズ予防啓発広告におけるセクシュアリティを表象分析した結果、エイズ予防としての性交時のコンドームの装着の奨励というメッセージが旧東西ドイツ時代のタブーや性規範を乗り越える形で映像化され、発信されていることが明らかになった。エイズ表象は、単なる衛生政策としてではなく、社会の性規範とその変遷から生み出されるきわめて生政治的なものとして考察される必要性を浮き彫りにした。

研究成果の概要（英文）：My project uses discourse analysis to examine sexuality in educational television and cinema advertisements on AIDS prevention after the German reunification. Results reveal that messages encouraging the use of condoms during sexual intercourse as a method of preventing AIDS were visualized and transmitted in a way that overcame the taboos and sexual norms of former East and West Germany. The project highlights the necessity to view discourse on AIDS, not simply as a health policy, but as a highly bio-political entity which emerges from the sexual norms of society and their transformations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術一般
キーワード：東ドイツ、エイズ、メディア表象、生政治、セクシュアリティ、コンドーム、裸体運動（FKK）、性規範

１．研究開始当初の背景

申請者はこれまでメディア（マス・メディアではなく、コミュニケーションを媒介するものすべてを指す）と身体表象および生権力の関係を研究テーマとしてきた。博士論文では、20世紀以降のドイツの性病予防およびバースコントロールをめぐる生権力をその一手段であるコンドームを中心に考察している。その研究過程で得た成果の一部として、共著『纏う―表層の戯れの彼方に』水声社、9-50頁、『大久保進先生古希記念論集』朝日出版社、333-356頁で、20世紀前半、主に梅毒・淋病の感染予防のツールとして軍隊に導入されたコンドームは、兵士の性的エネルギーを

戦闘エネルギーに有効に活用するための身体管理に利用されたことを明らかにした。その後、20世紀末に目を転じ、生権力および性規範の関係をエイズ表象分析によって明らかにすることを試みた。まず、ドイツ最大の購読者数を誇る雑誌 „Der Spiegel”及び„Der Stern”に掲載されたエイズに関する記事および写真、ポスター広告を1980年から2008年まで通覧・データベース化し、エイズ表象と性規範の相関関係を探った。その過程で、ドイツ厚生省の下部機関であるドイツ健康啓発局BZgAのメディア戦略が情報発信力と認知度・浸透度において優れていることに気づき、同機関の発行するエイズ予防啓発ポスターを中心に表象分析をすすめた。BZgAのポスター広告では、エイズ予防政策の焦点が感染予防としてのコンドーム利用促進に次第に絞られ、「コンドームについて語る」ことを政府機関であるBZgA自らが率先して始めている。1993年以降は、メッセージ媒体の中心を文字から画像へと変換することで、コンドームに対するマイナスイメージの払拭を試みている。このようなイメージ戦略には、避妊を専らピルに依存し、コンドームには婚姻外交渉や不潔さといった負のイメージを被せてそれにつて語ることを忌避してきた旧西ドイツ時代の性規範を、エイズ感染予防のために乗り越えようとする生政治的意図がうかがえることを明らかにした（「記号化しドット化するコンドーム」『ワセダ・ブレッター』早稲田ドイツ語学・文学会、第17号、2010年、60-79頁）。

エイズ予防啓発ポスターは病としてのエイズの表象という点でも考察されなければならない。エイズが免疫機能の低下した共同体の病としてイメージされ、1987年に西ドイツでエイズ・パニックが起きた事実を鑑みれば、一生体の病を共同体という身体にまで拡大して捉えるエイズ表象自体を変革しない限り、エイズ感染者に対する差別撤廃と個人レベルにおけるエイズ予防への意識改革は期待できないからだ。そこで、申請者は87年以降のポスター広告を再度分析し、93年を境にBZgAは意図的に身体画像を排し、かわりにコンドーム画像を据えることで、共同体の病から個人で予防する病へと表象転換を図っていることを解明した（「免疫・セキュリティー・コンドーム」　『表象・メディア論誌』　早稲田表象・メディア論学会、第1号、2011年、67-83頁）。以上の研究過程から、エイズ表象は各文化特有の性規範を参照しつつ個別に検討されねばならないこと、またその際、エイズ予防啓発に使用されるメディアの特性にも着目する必要性が浮き彫りになってきた。したがって、申請者は、BZgAのエイズ予防啓発のもう一つの重要なメディアであるテレビ・映画広告を検討する必要性を感じ、本研究を着手するに至った。その際、ドイツ統一(1990年)後はエイズ予防啓発の対象に旧東ドイツ出身者も算入されたことを鑑み、旧東ドイツの性規範も考察の対象にすることにした。

２．研究の目的

ドイツのテレビ・映画におけるエイズ予防啓発広告は、ドイツ統一以前と以降では内容的な変更が認められる。その生政治的意義を旧東西ドイツの性規範との関連を踏まえつつメディア論的視点から明らかにすることを目的として、本研究は遂行された。具体的な内容は以下の通りである。

１）ドイツ統一を受けたエイズ予防政策転換の目的

ドイツ統一以前はエイズ感染者への理解促進、エイズ感染経路の啓蒙、コンドーム購入の際の羞恥心を取り除くことを目的とした広告が主であったのに対し、統一以降、コンドームの装着法の具体的指示や性行為時にコン

ドームを使用することを呼びかけるテレビ・映画広告が作成されている。これまでの研究で明らかにした旧西ドイツの性規範、本研究目的２）で明らかにされる旧東ドイツの性規範を参照しつつ、統一後のテレビ・映画広告の方向転換の目的を探った。

２）旧東ドイツにおける性規範とエイズ表象の解明

資本主義社会において性文化を「消費」しながらも、キリスト教的道徳観からコンドームを依然として忌避していた西側と違い、旧東ドイツはキリスト教的性道徳を排し、社会主義的価値観に基づいた「生殖と性愛の文化」を発達させていたことが、近年の東ドイツ研究から明らかにされている。さらに、旧東ドイツにおいては、エイズ感染率が低かったことも報告されている。このような性文化を再検証し、旧東ドイツの性規範を浮き彫りにした。また、それが統一後のエイズ政策とどのような関わりを持つのかを解明した。

３）テレビ・映画広告というメディア性

ポスター広告では、共同体の免疫不全をイメージさせる身体は徹底して排除されたのに対し、テレビ・映画広告では一貫して人間身体が登場する。この映像への人間身体の登用は、エイズ予防戦略上、また、旧東西ドイツの性規範とどのような関連性をもつのか、メディア論の視点から明らかにする。

３．研究の方法

本研究は、１）エイズ予防啓発広告に関する資料収集・分析、２）旧東ドイツの性規範に関する資料収集・分析、３）衛生政策としてのエイズ予防啓発資料収集、４）国内外の研究者との交流を四本柱として進められた。なお、本研究に関する基本資料は国内の図書館・博物館には所蔵されていないため、１）２）３）はドイツでの収集が主となった。

１）ドイツのエイズ予防啓発広告に関する資料収集・分析

旧東西ドイツおよびドイツ統一後のエイズ予防啓発のための映像資料については、ドイツ衛生博物館（ドレスデン）、ドイツ歴史博物館（ベルリン）にて閲覧・撮影・コピーを行った。また、補助的作業として、コンドームの歴史的資料・現物閲覧を行い、当時の製品としての品質、およびその主な使用用途（避妊具か予防具か）を調査した。

２）旧東ドイツの性規範に関する資料収集・分析

雑誌 „Das Magazin“は、旧東ドイツ時代から現在まで継続して発行されているセクシュアリティに関する大衆誌であり、壁崩壊まで約50万部の発行数を誇っていた。よって、旧東ドイツにおける性行動・性規範・エイズ報道の抽出は、この雑誌を1980年代から1990年代までを通覧し、分析することを主とした。かつての冷戦構造から、当該雑誌は国内の図書館には所蔵されておらず、ドイツにおいても所蔵館数が少ないため、現地にて現物を購入した。入手できなかった号、その他関連資料はフンボルト大学図書館、ベルリン自由大学図書館、ドレスデン大学図書館にて閲覧・コピーした。

３）衛生政策としてのエイズ予防啓発

エイズ予防啓発の政府機関であるBZgAの啓蒙方針とメディア戦略については、当該局のホームページおよび機関誌を閲覧・分析した。また、エイズ啓蒙戦略の根拠となる統計学的データについては、BZgAの年次報告、啓蒙広告成果報告書、性行動実態報告書をゲん

ッティンゲン大学図書館、ドイツ国立図書館（ベルリン、フランクフルト）にて閲覧・コピーした。旧東ドイツ地区におけるエイズに関する実態報告については、ライプツィヒ大学図書館、ドイツ国立図書館（フランクフルト）にて収集した。

４）国内外の研究者との交流

旧東ドイツの性規範については、「国際ゲルマニスト会議」での口頭発表を利用し、各方面の専門家から助言をもらった。ドイツ統一後のテレビ・映画広告分析については、その精密さを増すため、早稲田大学文化社会研究所の定例勉強会で発表し、テレビ・映画という媒体を通じてなされるメッセージのメディア論的理解および社会学的見解について助言を求めた。

また、本研究を進める過程でジェンダー論的視点の導入の必要性が生じたため、「ジェンダー医療学会」および「ドイツ・ジェンダー学会」に参加し、ジェンダー理論の知見を得た。

さらに、ドイツのエイズ予防政策の顧問を務め、インターネットを活用した性教育コースを運営しているエルヴィン・ヘッベルレ氏と面談し、ドイツのエイズ政策およびセクシュアリティ問題について意見を交換した。クィア理論を専門とするアンドレアス・クラース氏（フンボルト大学）、性科学のアンドレアス・クラース氏（フンボルト大学）、エイズ啓発広告の専門家ジルケ・シェーファー氏（ドイツ衛生博物館学芸員）との交流も進めた。

４．研究成果

ドイツ統一後のBZgAのエイズ予防戦略の目標は、ポスター・映像広告共にコンドーム利用促進という点で一致しているが、その具体的方策は異なっている。ポスター広告では、コンドームのマイナスイメージの払拭というイメージ戦略が取られているのに対し、テレビ・映画広告では性交時に（ピルではなく）コンドームを使用するという男女の性行動の改変を迫っている。後者は、映像の持つ時間性が、男女の性関係やセクシュアリティに関する物語化を可能にするというメディア的特性を生かしてメッセージが発信されている。例えば、出会いから性行為に至るまでのシークエンスに、コンドームの所持あるいは着用シーンが挿入され、それが性行為へのゴーサインとなっていたり、コンドームの使用を忌避する男性の心理が批判の対象として映像化されていたりする。このような映像を媒介とした避妊・予防行為の選択指示や性行為における男女の関係性への干渉は、個人の極めて私的な領域までの生権力の侵入と言える。しかしながら、これがエイズ予防啓発広告としてドイツで一般的に承認され、それどころか継続的な放映を求められているのは、エイズ予防意識の高さという理由のみならず、以下3点の解放・変革のディスクールの作用と考えられることを解明した。

１）旧東ドイツにおいては、裸体文化（FKK）の大衆化にみられるように、裸体そのもの提示に対して寛容であったのに対し、性のメディア表象はポルノグラフィー・ヌード写真などのいわゆる「性の商品化」につながるものとして禁じられていた。そのため、統一後は「旧体制による性の抑圧からの解放」と同意義で性のメディア表象が渇望されたことが、雑誌 "Das Magazin"のディスクール分析から明らかになった。このような「解放」という名の「性の真理」への欲望（フーコー）は、エイズ予防啓発を目的としたテレビ・映画広告戦略に有利に作用したと言える。そこであ

からさまに描写される性的に欲望する男女の身体と性行為に至る前提条件としてのコンドームの着用は、旧東ドイツ出身者にとっては性のメディア表象という「解放」を意味した。
２）他方、この広告は、旧西ドイツ出身者にとって、80年代まで根強く残っていたコンドームを語ることへのタブーからの「解放」を意味した。
３）旧東西ドイツの共通点として、ピルの普及によりバースコントロールが専ら女性に委ねられてきたことが挙げられる。エイズ広告でなされるコンドーム着用のためのプロパガンダは、避妊・予防行為への男性の参加という「変革」を促した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）
(1)嶋田由紀、裸の記憶：雑誌"Das Magazin"における東ドイツの性規範の再構築、プロジェクト研究、査読有、8号、2013、1-14、http://www.kikou.waseda.ac.jp/uploadfile/ronbun/ProjectMagazine/00087/JPN/00087.html

〔学会発表〕（計1件）
(1) Shimada, Yuki :Rekonstruierung der ostdeutschen Sexualnorm in der Zeitschrift "Das Magazin" aus den 1990er Jahren. Asiatische Germanistentagung, 20.08.2012, Beijin (China)

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
嶋田　由紀（代表者　SHIMADA YUKI）
早稲田大学・総合研究機構・招聘研究員
研究者番号：00333138
(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：